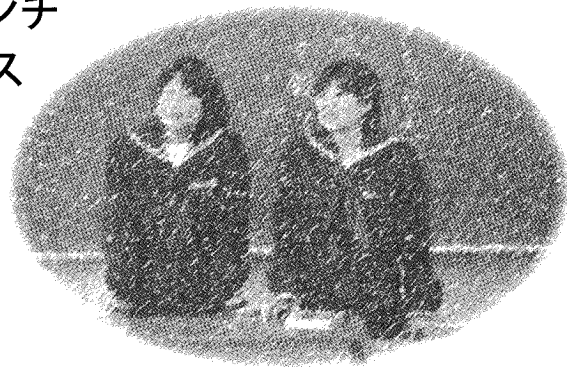


国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース



前号のつづきです。

私が、「全体学習(みんなで語り合う人権学習)が今の自分におよぼすものは?」と尋ねると、彼女は間髪入れず答えました。

やっぱり集団づくりに関わりたいなと思う。

突然告げた彼女の予想外の言葉に、私はウルツとなりかけました。

実は彼女は、中学卒業後、高校・大学と進学し、今は教員として学校に勤めています。当時体験した教育が、その後の彼女の進路や人生に、大きく影響していたということを、私はこのとき初めて知ったのです。

動揺を悟られまいと、私はすぐさま訊きました。

「なんでそう思う?」

毎日毎日学校に通ってきてると、クラスが居心地いいってすごく大事。勉強ができるできないよりも、ここに自分がいてもいいんだなっていう、それだけで学校に行きたいなって思えるし、しんどいときは、生きてていいんだぐらいに思えるから。いろんな人がいて、いろんな価値観があって、いろんな考え方があって、それでいいんだって。そのなかでどうつながっていったらいいんだらうって思えるのが大事なんだと思う。

自分のことも大事だし、相手のことも大事で。もちろんぶつかることもあるんだけど、ぶつかることが悪いことではなくて、ぶつかってみんなで、二人だったら二人で、その落としどころ、クラスだったらクラスみんなでどれが一番いいんだらうなって考えて、落としどころを見つけていくっていうのが一番いいんだなっていうか、一番みんなが納得いくし、気持ちがいいし、みんなが決めたなって思えて、みんなでやっついこうって思えるようになった。

やはり、「人を知る」ということの重要性です。それは翻って、自分のことも知ってもらおうということ。そうすることで、自分が認められていると実感できる。このことが重要なわけです。そしてその過程のなかで、「たがいに越える」「ともに越える」ことを実感できることが、教育の何よりの醍醐味なのだと思います。

重ねて訊きました。

「そんなふうに思えてなかった可能性もあっただらうか?」



もちろん。だって、面倒くさい。自分の考えと合わない人とやっていくのって。排除してっいうか、自分の考えと合う人とやっていく方が楽しいし、楽だし、そっちの方がいいなと思う。けど、それだけだったら面白くないっていうか。自分の考えつかないような考えが出てきたりとか、それぞれでは考えつかないけど、新しいものが生み出せるっていうか、ぶつかることで相手のことがより深く知れる。自分のことも分かってもらえる。それが楽しいと思えるようになった。意見が違って、価値観が違って、生き方が違ったとしても、分かり合いたいっていうか、人に対する興味みたいなものがもてた。あの時期のそういう思考が、私の人格形成に影響を与えたっていうことだと思う。あのときにそのベースができたんだと思う。

教育のありようが、子どもたちのその後の生き方や将来の進路に影響を与えます。とりわけ、他者と「本音で語り合う」ことが、大きな影響を及ぼすということです。もしそういう経験をせずに大人になっていれば、人と交わる喜びを感じないまま大人になってしまうのかもしれない。

「つながり」「絆」が強く叫ばれた東日本大震災から10年。そんな言葉を具体的、継続的に、教育に生かしていく人権教育は、今も紡がれているでしょうか。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおブランチ代表